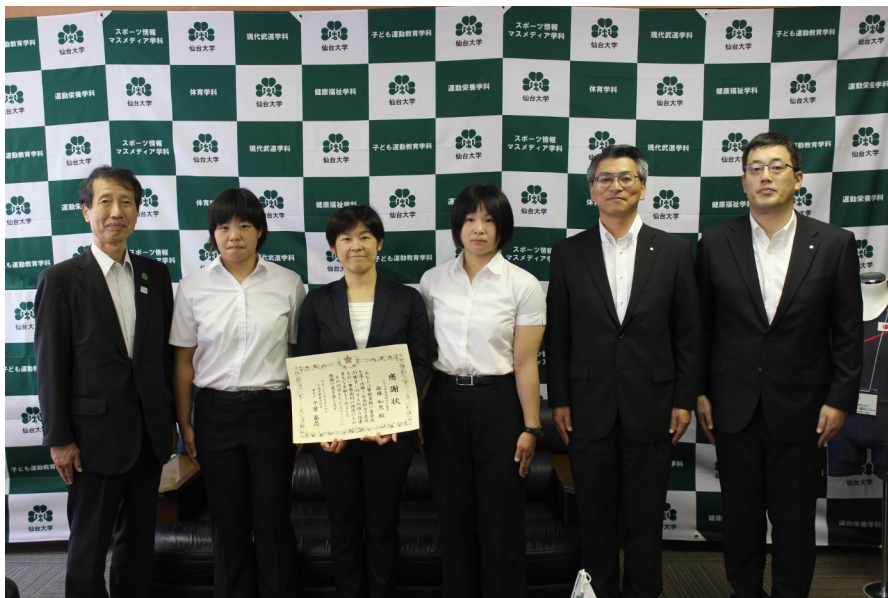


南條和恵監督が宮城県警察学校より 柔道の技術指導に感謝状を授与



感謝状を授与された南條和恵監督（左から3人目）

9月14日（木）本学の学長室において宮城県警察学校の千葉泰忍校長先生より南條和恵監督に対し警察学校の柔道技術向上に貢献したことへ感謝状が手渡されました。

南條和恵監督は今年5月に宮城県警察学校において柔道・剣道を指導している警察官約100名の方々に「女子柔道の安全指導」と題した講話を行ったほか、宮城県警が女子武道指導者として初めて採用した2名の職員に対し、大会出場に向けた稽古を行ってきました。また、その2名は今後、掲載津業務に従事しながら柔道選手として活動していくだけではなく、他の警察官への柔道指導にも携わっていくということです。

千葉校長先生からは「高いレベルの方が女子柔道を指導していただけの機会がこれまではありませんでした。南條監督の指導は大変助かりました」と感謝の言葉を述べられました。また、感謝状授与式当日には、南條和恵監督から技術指導を受けた女性職員2名も同席しそれぞれから感謝の意が述べられました。

警察学校での指導の際には本学柔道部の女子選手も一緒に参加させていただいたということで「学生の勉強にもなり、感謝しています」と感謝状を受け取った感想と併せ、貴重な機会を与えていただいたことへの感謝も述べていました。

南條和恵監督は今年度、全日本柔道連盟からの委嘱を受け「女子柔道振興委員」も務めています。

なお、この感謝状授与の話題は9月27日付の河北新報朝刊でも紹介されました。

〈目次〉

・南條和恵監督が宮城県警察学校より柔道の技術指導に感謝状を授与	1
・ハワイ大学AT研修アドバンスコース実施 ・中国・瀋陽師範大学視察報告	2
・キャリアプランニングⅠで 宮城県警による講話	3
・仙台大学開放講座 「脅かされる世界平和 北朝鮮の跋扈」を開催 ・キャンプ実習の成功と来年への課題	4
・遠藤保雄上級研究アドバイザーが「日本経済と警備業」出版	5
・河北新報に全面広告を掲載しました	6
・開学50周年記念 「2017東北こども博」「仙台大学 大学祭」「スポーツフェスティバルin柴田」 「柴田町ホストタウン登録 ベラルーシ新体操演技発表会」が開催されます	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室
直通 0224 - 55 - 1802
Email kouhou@sendai-u.ac.jp

ハワイ大学AT研修アドバンスコースを実施

平成29年9月2日～9月10日にかけてハワイ大学アスレティックトレーニング研修アドバンスコースが実施されました。今回の研修は、2003年12月にスタートしてから25回目(15年目)という節目の回でした。参加学生は4名と少数でしたが、現地ATCの金岡友樹氏、田村薫里氏、大庭有希也氏に英語で指導をいただく中で、日に日に英語環境へ順応していく学生達の姿が印象的でした。

「献体解剖実習」は、国内ではなかなか体験ができない実習であり、学生達は御献体への追悼と感謝の意を胸に実際の「解剖」を学んでいました。実習はほぼ英語で行われましたが、一緒に参加したハワイ大学の大学院生(以下UH学生)の中に日本人がおり、時々日本語での解説も交えていただけたため、より実りある学習体験となりました。UHではより詳しく献体解剖実習が行えるHawaii International Athletic Training Education Clinic(HI-ATEC)という国際研修プログラムを有しており、今回の献体解剖実習を体験した学生からは、HI-ATEC参加への意欲を示す学生もいました。その他の講義・実技研修もUH学生と共に受講し「英語のみ」という条件下のなか、説明を理解し、身振り手振り駆使しながらもUH学生とのコミュニケーションが取れている姿に、本学学生のグローバル化が進んでいる事を感じました。

研修中には昨年度卒業し現役で日体協AT試験に合格した村上泰司さん(運動栄養学科卒業、NATA-ATC取得のためUH大学院進学を目的に渡航)との再会も実現しました。4名の参加学生にとって、今年春まで身近にいた先輩の村上さんとの交流により、アスレティックトレーナー活動へのモチベーションが高まったようでした。村上さんからは“目的や目標をしっかりとって、決して諦めずに頑張ってください!”という熱い激励の言葉をいただきました。

今回の研修は、学生達にとって今後の学生生活へ大きな影響を与えるものであったと思います。このAT研修を通して得られた“気づき”を胸に、どのような学生へ成長していくかが楽しみです。今後も、本学とUHとの良い関係が継続していくことを願っています。

【報告：新助手 小野勇太】



修了式の様子 UHの関係者とともに

中国・瀋陽師範大学視察報告

9月11日(月)から2泊3日の行程で、朴澤泰治 理事長・学事顧問と共に瀋陽師範大学および大学附属幼稚園を視察してきました。

中国では、「国家は計画出産を推進し、人口の増加を経済発展計画に適応させる」という理念に基づき、1982年から一人っ子政策を実施してきましたが、その後、高齢化に対応するため、2016年から二人っ子政策へと舵をきりました。子どもや子育てに関する制度の変化や経済発展に伴い、子どもたちを取り巻く環境も変わってきました。このような、社会環境の変化は子どもたちの身体と心の健康や発育発達に影響を及ぼしています。中国政府体育部によると、子どもの体力・運動能力、健康状態は1985年から低下していると報告されています。その原因として、環境汚染、過保護、子どもを狙う犯罪、子どもの遊びの変化などが挙げられます。結果として、運動不足による心身機能の低下、子どもの肥満傾向の増大などの課題が生じることとなりました。

本学と連携協定を結んでいる中国瀋陽師範大学の附属幼稚園では、園児の運動能力の向上を目指し、中国教育部が2014年に公布した「3歳～6歳児童学習と発達ガイドライン」を受け、園独自のカリキュラムの中に「運動」を重点的に取り上げています。5歳児クラスを例にとると、カリキュラムに走・跳・投の基礎運動を毎日1コマ組んでいるのに加え、スケート、サッカーといった選択種目を週2コマ行うなど、1週間に7コマの運動枠を設定して子どもの運動能力向上に取り組んでいます。写真は、そのフィールドと保育の様子です。今年度スタートした子ども運動教育学科では、日本・中国・韓国その他の海外の保育の動向に焦点を当てた比較研究を進めています。本視察で得た知見は、今後の学科の研究に繋がる重要な視点であったと確信しています。

【報告：子ども運動教育学科長 教授 久能和夫】



付属幼稚園内で遊ぶ子どもたち

キャリアプランニングⅠで宮城県警による講話

9月28日（木）の1～2限と29日（金）の1限に行われた、必修科目「キャリアプランニングⅠ」の全体講義において、宮城県警察本部犯罪被害者支援室の内海祐子氏、および紀野國宏明准教授による講話が開催されました。なお、木曜2限には河北新報社より取材を受けました（内海氏の講話のみ）。

当日は、まず内海氏より「大学生と犯罪被害—充実した『学生生活』を送るために—」と題した講話が行われました。内容は、犯罪被害の問題や防犯の心構え、また被害にあった場合の対処の仕方および相談先を知る、というものです。犯罪被害にあう可能性を常に自分事として捉え、またそれを自覚したうえでどう生活すべきか、という点について、学生たちはみな真剣な態度で聴講していました。

引き続き行われた紀野國先生による「私たちの仙台大学を取り巻く安全情勢—安心して暮らすために—」と題した講話では、柴田郡や柴田町、および本学での事件事故等の状況を踏まえて、学生が気をつけるべき社会的常識やルールについて注意喚起がなされました。夏休みを終えて後期授業が始まったばかりの学生たちにとって、この講話はいま一度気持ちを引き締め直す機会となったはずです。

なお、キャリアプランニング科目は、学生のキャリア意識の醸成と、それを踏まえた学生生活の向上を目的に、1年生後期から3年生まで3年間にわたり全学生が履修する必修科目です。このうち、1年生配当の「キャリアプランニングⅠ」では、まずは入学してから半年間と夏休みの振り返りを行うことから授業が始まります。今回の講話もまた、学生が各々の生活態度を自己点検し、後期以降の学生生活を充実させる一助となったことでしょう。

（報告：准教授 藪 耕太郎）



県警の方の講話に耳を傾ける学生

「秋の交通安全県民総ぐるみ運動」に参加

9月21日（木）午前7時ごろから約1時間、「平成29年秋の交通安全県民総ぐるみ運動」の一環として、船岡駅周辺で交通安全を呼びかける交通事故防止街頭活動が行われました。本学からも学友会に所属する学生6名と、学生生活室職員2名が参加しました。

冒頭、滝口柴田町長、高橋大河原署長から挨拶があり、その後、交通安全・事故防止を呼びかけながらポケットティッシュを配布しました。この活動は、春と秋の年2回行われており、本学からも毎回学生と職員が参加しております。

【報告：学生生活室】



平成29年度新任者紹介(9月1日付)



ししど みつる
矢戸 充さん
事業戦略室
担当課長

9月から事業戦略室でお世話になります矢戸充です。全てが目新しいことばかりでお役にたつまで少し時間がかかりますと思いますが、精一杯頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。

仙台大学開放講座

「脅かされる世界平和・・・北朝鮮の跋扈（ばっこ）」を開催

平成29年9月20日（水）仙台大学第5体育館大教室を会場に、仙台大学開放講座「脅かされる世界平和・・・北朝鮮の跋扈（ばっこ）」を開催致しました。講師は、本学の上級研究アドバイザー、東京事務所所長の遠藤保雄先生。対象は宮城いきいき学園仙南校の学園生で、73名の方に今回の開放講座を聴講頂きました。

宮城いきいき学園は、高齢者の学習ニーズに応えるための学習の場の提供を通じて、生きがいと健康づくりを推進するとともに、地域社会の発展に寄与できる高齢者の地域リーダーとなる人材の育成と地域貢献活動への参加を目的として、平成3年に仙南校が開校されました。現在は、大崎校、石巻校、気仙沼・本吉校、登米・栗原校を加えた計5校が宮城県社会福祉協議会によって運営されています。仙南校では、平成24年より学内施設を使用して月に1～2回、講義や演習など様々な授業が展開されています。



講義に耳を傾ける宮城いきいき学園の受講者

講話では、軍事的な緊張が連日報じられている北朝鮮問題を取り上げ、北朝鮮が核実験やミサイル発射実験を実施するようになった歴史的経緯やそのねらい、核開発とミサイル開発が可能になった理由、ミサイル・核攻撃の可能性の高まりに対して日本はどう対処すべきか等、遠藤先生から分かりやすく解説して頂きました。

参加者の方々は、真剣な眼差しで聴講されて、自分たちの世代だけでなく、お子さんやお孫さんの次世代、次々世代の安全で平和な暮らしに関わる大事な安全保障の問題なだけに、今回の北朝鮮問題に関しては、強い関心を持たれている様子でした。

今回の講話が、参加者の方々にとってグローバルな視点で北朝鮮問題や安全保障問題を考えて頂く、良い機会になったと思います。

【報告：スポーツ健康科学研究実践機構事務局 目黒 翔太】

キャンプ実習の成功と来年への課題

平成29年度の集中授業「キャンプ」が、宮城県白石市「南蔵王野営場（国立花山青少年自然の家管轄施設）」にて行われました。第一団は8月30日～9月2日、第二団は9月4日～7日、それぞれ3泊4日の日程で実施されました。実習生は各団で50名、学科部活混成の8班に分かれて野外生活や沢登り、登山に取り組みました。それぞれの班にはキャンプカウンセラーとして補助学生（本学3～4年生）が一人ずつつき、実習生と生活を共にしながら、野外活動の指導にあたりました。

第一団は雨予報でのスタートとなり、1日目は雨が降る中テントを濡らさないように設営することとなり、どの班も苦戦を強いられました。しかし、天気予報を覆し、2日目の沢登りと3日目の登山は太陽の光を浴びながら実施することができました。特に3日目の登山は、近年でも一番の晴天に恵まれ、気持ち良く歩くことができました。また、夜のキャンプファイヤーも実施することができました。キャンプ実習の登山では、実習生の主体性を育むため、カウンセラーが道を教えるのではなく、実習生が地図とコンパスを使って進む道を探す方法をとっています。1団では、地図とコンパスを使わず、安易に登山道を進んでしまった班が、間違った道を選んで進んでしまいました。人的ミスも重なり、1時間以上も間違った道を進んでしまいましたが、本部スタッフが早めに対処して遭難は避けることができました。改めて、スタッフトレーニングとリスクマネジメントの重要性をスタッフ全員で共有することができました。



キャンプ実習に参加した学生たち

（次頁に続く）

第二団では、気持ちのいい秋晴れでのスタートとなり、テント設営や野外炊事も順調に進みました。2日目の沢登りも気温があがり、絶好の沢日和となりました。沢登りの最終地点では、教職員も天然の一枚岩ウォータースライダーから水の中に飛び込み（滑り込み）、学生と共に大いに盛り上がりました。3日目は雨の予報で、キャンプファイヤーは室内で実施することになりましたが、登山でも激しく降られることはなく、無事に終えることができました。

今年の実習は、ルール違反による下山者もおらず、登山も途中でリタイアする者もいませんでした。実習生が自覚を持ってしっかりと持ち物を準備し、真剣にプログラムと向き合ってくれたためであると思っています。また、大学院生TA

（ティーチングアシスタント）や補助学生の活躍も素晴らしく、近年でも最も指導陣の能力（パフォーマンス）が充実していました。その結果、非常にレベルの高いキャンプ実習となりました。残念なことは、実習生が少なかったことです。部活の遠征や試合が重なる時期であるため、どうしてもキャンセル者が増えるのは仕方ありません。しかし、5年前には1団あたり倍近くの実習生がおり、15班編成の年もありました。実習に関わっている教員からも実習の意義を認めていただき、学生の達成感と満足感に溢れている表情を見ていると、何とかしてもっと多くの学生・教職員にキャンプ実習に参加してもらいたいと強く感じました。

【報告：講師 岡田 成弘】

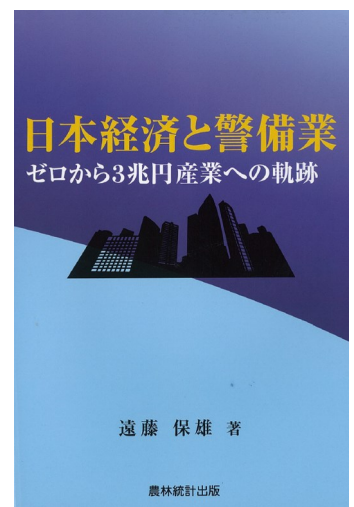


遠藤保雄上級研究アドバイザーが「日本経済と警備業」出版

本学が50周年を迎えた今年4月、遠藤保雄上級研究アドバイザーが「日本経済と警備業—ゼロから3兆円産業への軌跡—」を出版しました。これは現代武道学科の創設以来担当してきた科目「日本経済と警備業」の講義録をベースにまとめたとのこと。

警備業に関する学術的な研究書は、この分野の第一人者である本学の田中智仁准教授による「警備業の社会学」「警備業の分析視角」（いずれも明石書店）があります。これらは社会学的な視点で整理されているのに対し、本書は経済学的視点で警備業の動向を追ったもので、第6章からなる多角的な産業経済分析書です。まず、1962年に産声を上げた我が国警備業の創生・発展・成熟の過程を1960年代以降の日本経済の高度経済成長期、安定経済成長期、90年代、失われた20年に突入した2000年代、そして最近年のアベノミクス期に着目して考察しています。特に、バブルの弾けた90年代以降今日までに、日本経済が低迷を続ける中、警備業の売上高は1兆円から2.4兆円、そして、3.3兆円に急増していますが、不況の下での警備ニーズの高まりを丹念に掘り起こしその謎解きに挑戦しています。次に、主要警備業務に着目し警備業務がなぜ拡大してきたか豊富な経済データを駆使して明らかにしています。機械警備の進展と都市での高層複合ビル建設に伴うシステム警備の導入により拡大した施設警備、スーパーマーケットの増加に伴い急増した万引き防止の保安警備、飛行機の旅行客が増加する中、ハイジャック防止のため不可欠となった空港保安警備、ATMの普及と2人三脚で増加した現金輸送警備など生活実感に合わせた分析が展開されています。第三は、テロ対応、サイバー攻撃対処、東日本大震災で必要性が認識された災害対応警備、東京五輪・パラリンピック警備の準備など新しい警備ニーズへの対応も挑戦課題として取り上げています。第四は、2000年代に入り顕著になってきた警備企業の再編統合を追う一方、警備業界の抱えるアキレス腱ともいえる「過当競争・警備料金値引きの横行・低迷する警備員賃金と人手不足・警備業務の質の劣化」など、警備業の抱える問題をあぶり出しています。そして、その改善にどう取り組むべきかにつき鋭い論法を展開しています。その主張は、警察業務と類似性がある警備業について、その社会的地位の低さを取り上げ、警備業務は営利を目的とした私的な経済行為だが、犯罪抑止や事故防止など公益的な機能を兼ね備えているとし、準公共産業であるというものです。

本書は、日本社会に向けた小さな大砲という役割を担う、ある意味で、船岡のキャンパスに静かに咲く「警告の論書」といえるかもしれません。



河北新報に全面広告を掲載しました

本学の開学50周年を記念し、9月30日の河北新報朝刊に「仙台大学開学50周年記念特集」全面広告が掲載されました。 広告では「東北こども博」「国際交流イベント（IFE）」「歴史を彩る卒業生の紹介」などが紹介されています。

なお、広告掲載にあたっては、数多くの企業様からのご協賛も頂戴いたしました。この場をお借りして御礼申し上げます。

仙台大学 50年の歩み

1967年（昭和42年）開学。以来、50年が経過しました。この間、社会の発展とともに、教育のあり方も大きく変わってきました。私たちは、常に時代の潮流を捉え、教育の質を高め、社会に貢献してきました。

1967年（昭和42年）開学。以来、50年が経過しました。この間、社会の発展とともに、教育のあり方も大きく変わってきました。私たちは、常に時代の潮流を捉え、教育の質を高め、社会に貢献してきました。

仙台大学開学50周年記念事業

国際交流イベント IFE in SENDAI International Friendship Event

日時/11月1日(水)13:00~ 会場/ゼビオアリーナ仙台

仙台大学と国際交流を結ぶ11か国・11大学・11団体の学生が、それぞれの国の特色を現したパフォーマンス披露や、本学の学生による新体操やダンス、演劇等の披露による国際交流イベントが実施されます。

2017 東北こども博

日時/10月7日(土)~8日(日) 会場/仙台大学 10:00~16:00

東北11県に11の会場があり、それぞれがその地域の特色を現したパフォーマンスや、仙台大学と国際交流を結ぶ11か国・11大学・11団体の学生が、それぞれの国の特色を現したパフォーマンス披露や、本学の学生による新体操やダンス、演劇等の披露による国際交流イベントが実施されます。

「実学と創意工夫」(建学の精神)を活かした「スポーツ・フォア・オール」(教育理念)

身体活動を基軸に、体育・健康増進・運動安全・情報戦略メディア・安全安心・幼児教育など、スポーツと人間社会を支える人材育成の50年。

仙台大学開学50周年記念式典

日時/平成30年1月24日(水) 会場/江ノ島グランドホテル

仙台大学

〒980-8585 仙台市青葉区中央2-10-3
TEL: 022-224-5151 FAX: 022-224-5152

祝 学校法人 朴沢学園

仙台大学開学50周年

祝 仙台大学開学50周年

白河以北唯一の体育系大学として半世紀

祝 仙台大学開学50周年

おめでとうございます

祝 仙台大学開学50周年

おめでとうございます

祝 仙台大学開学50周年

おめでとうございます

祝 仙台大学開学50周年

おめでとうございます

祝 学校法人 朴沢学園

仙台大学開学50周年

祝 仙台大学開学50周年

おめでとうございます

祝 仙台大学開学50周年

おめでとうございます

祝 仙台大学開学50周年

おめでとうございます

祝 仙台大学開学50周年

おめでとうございます

祝 仙台大学開学50周年

おめでとうございます

「2017東北こども博」「仙台大学 大学祭」「スポーツフェスティバルin柴田」
「柴田町ホストタウン登録 ベラルーシ新体操演技発表会」が開催されます

また、期間中には「仙台大学 大学祭」や柴田町との共催事業である「スポーツフェスティバルin柴田」も同時開催されます。

